

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23年 10月 20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471700264		
法人名	府中ツキ板有限会社		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	広島県府中市中須町1412番地の1 (電話)0847-47-1006		
自己評価作成日	平成23年10月1日	評価結果市町受理日	平成23年10月5日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3471700264&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成23年10月19日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

介護保険制度の基本理念 利用者本位 高齢者の自立支援 利用者による選択(自己決定)を念頭に入れ、安心、安全のもと日々支援しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームひまわりは府中市内では最初に設立された認知症介護施設です。設立当初から認知症介護に熱意を持って関わられている管理者と職員も多数で良好なチームワークが保たれ、入居者1人1人の生活歴等の細部に配慮し、優しく寄り添われた支援が続けられています。又地域のグループホームの先駆的存在として、市役所との連携で認知症介護の情報提供を行う役割も担われています。国道に近い利便性を持ちながら、静かな田園風景が広がる農道に面した立地で利用者の散歩コースにも最適で、日常的に散歩のケアを取り入れ近隣よりも理解が得られています。地域の中学生の職業体験学習を受け入れ、利用者若者との楽しい交流の時間となるとともに認知症への理解が深められているとの報告がされました。
--

グループホームひまわり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入所者に対して常に「礼儀正しく」「言葉遣い」「笑顔」「信頼感」に配慮し、地域の中でその人らしく暮らしていける援助。	管理者、職員は廊下ですれ違ったり、リビングで同席される入居者に常に笑顔で接し、その場に適した丁寧で、優しい言葉かけをされている情景が見受けられ、理念で示されている「礼儀正しく」「言葉遣い」「笑顔」「信頼感」の目標を共有されている事が感じ取れた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の要請があれば積極的に参加、地域のボランティアの受け入れも随時行っている。	ホーム運営事業者が近隣に居住し、開設当初より地域住民の理解に支援されつつ運営は続けられている。近隣のお寺やお宮への散策や隣接農道の散歩時は親しく声かけを頂いている。お祭りのお神輿にも参加している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	他の地域のサービス担当者会議に積極的に参加している。1回/月		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者や家族、地域住民、関係機関等、要望、助言等を聞く機会実施し、サービスに活かしている。	運営推進会議では事業報告や協力医療機関の往診状況について説明され、出席者より助言を頂きサービスの実施に繋げている。会議の出席者は町内会長、民生委員、老人会長、利用者家族代表、事業所代表、管理者、職員等10名以上になる。	運営推進会議の出席者を毎回参加される方々に加え、地域包括センターや消防署、派出所、社会福祉協議会等よりの参加を依頼され、防災や防犯、その他の社会的資源の活用を日常の運営に役立たされることも期待されます。
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	月1回は必ず要望、助言等を聞く機会を設け、積極的に研修参加している。	市介護保険担当の課とは、常に連絡を張り助言を求めている。市内でグループホーム開設が早かったため、先月は国の監査を受けるよう要請を受け、受けたことによって色々な情報を伝えられて効果的であった。	中学生職業体験の学習の場として協力され、学生の教育面、利用者と若者の触れ合いの楽しみ等に効果的な影響がある。
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	転倒、転落等の危険の予測が出現した時、例えば、ベッドから畳へと変更し、対応している。	各個室のドアは施錠はせず、入居者は2ユニット間を自由に行き来され、その都度職員は対面する方に(一般道路ですれ違った如く)挨拶や優しい声かけをされていた。安全確保の為に説明されたが、玄関は施錠され、外出を要望される毎にそれとなく見守りしながら外出を支援している。玄関に模擬バス停を作り、帰宅願望の方への話題作りをされる等の工夫が見られた。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に関する新聞、テレビ等の報道を教訓にホーム内で研修を重ね、虐待防止に努める。		

グループホームひまわり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	率先して研修の場に参加し、出来る限り、活用する様支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時、一言一句契約書を読み、納得が行く様、家族に十分説明し、同意を得る。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置し、相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員を明確に掲示している。	軽度の利用者や度々ホームを訪問される家族の意見は十分に聞き取れているが、年数を重ねて高齢化、要介護度が進まれた方の意見や「おまかせ」と言われる家族の意見をくみ取ることが困難となっているので、職員間で少しでも情報を集めるように努めている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回は必ずミーティングの機会を確保、課題があれば随時、機会を設ける。	職員間のコミュニケーションが良く取れ、一応担当制は決められているがミーティング時以外でも口頭でも度々連携を摂り支援に役立っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	有給休暇取得のための措置(正月休み、盆休み等)、資格取得、能力向上のための措置(研修受講料、旅費負担)、ミーティングにより職場内コミュニケーションの円滑化及び健康診断の実施、又、安心・安全対策としてスプリンクラーを設置し、努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・ホーム内の研修 1回/月 ・地区介護支援専門員連絡協議会 1日/月 ・研修の情報を確保し、育成を進める。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	交流の機会を持ち、相互訪問等の活動は行っている。		

グループホームひまわり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	まずは相談を聴く機会を提供し、本人が困っていること、不安、求めていること等を受けとめる努力、支援を行っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	まずは相談を聴く機会を提供し、介護保険の概要を伝え、家族が困っていること、不安、求めていること等を受けとめる支援をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談しやすい雰囲気を作り、必要としている支援及び他のサービス利用も助言している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	その方の生活歴は支援する上で大切な事、重要事項として本人の目線で支えあっている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	意志・希望等、本人が伝えられない部分は助言し、家族の方と一緒に支援している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている。	面会、電話等、気楽に交流できるよう支援している。	入居前の友人が訪問される方もあり、職員も親しく馴染みになって迎えている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の馴染みの関係を大切に演芸等の観覧、意図的に関わり合いを提供している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他の施設等になっても情報は収集し、要請あれば対応し、可能な限り支援する。		

グループホームひまわり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	可能な限り、個人との触れ合いを通して、希望、意向を把握している。	お1人お1人の過去の思い出を把握し、日常会話の中に織り交ぜながら、話しかけられる場面があり、利用者も楽しそうに受け答えをされ信頼関係が見受けられた。利用者同志の友人関係を温かく支え、双方の日常生活が穏やかに生まれ、家族も安心感を持たれていると報告がされた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	情報提供して頂き、ケース記録に記載し、把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝のミーティング 伝達事項 ケース記録 等で把握している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミーティングでカンファレンスを開き、現状の把握、課題、問題点、ケアのあり方等検討している。	職員は担当制となっているがミーティング等で全員が状況を報告し合い、本人や家族の意見を織り交せて介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録には、緊急連絡先、介護記録、健康チェック表、看護記録、処方録、伝達事項、ケアプランを一緒に綴っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	要望に応じて情報を共有し合い、柔軟な支援をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	月1回の定例ケア会議等で接点があり、必要性に応じて協働している。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	当ホームでは嘱託医を確保しているが、希望がかかりつけ医を依頼される家族もおられ、適切な医療を受けられる支援をしている。	ホームでかかりつけ医を確保し、1カ月に2回の往診を受けている。その他本人の入居前からのかかりつけ医を希望される方にはそのまま関わって頂くように支援している。	

グループホームひまわり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	現時点では看護職は非常勤であるが、時間帯を工夫しながら日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、家族、職員と情報交換、話し合い、協力を医療機関と出来ている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化は避けられないので、早い段階から本人、家族、医療との話し合いで同意を得て方針を共有している。	本年になってお2人の看取りを経験した。高齢化、重度化は避けられなくなり、本人や家族からも当施設での看取りを要望される方が増えてきた。早い段階から医師や家族と話し合いを行い方針を決めている。職員よりは賛成の意見がありながらも1人体制での夜勤時での不安感の声があった。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	「緊急時対応マニュアル」を目の届く所に掲示し、事故発生に備えている又、ミーティング等で勉強会を開いている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	管轄消防機関で年2回防災訓練施行。地域の面では防災(避難)台帳を作っており、町内会、社会福祉協議会、医療機関の協力のもと対策を講じている。	防災訓練は年2回主に夜間に設定し、入居者の方も参加されて行っている。近隣自治会及び地元消防団との非常時の応援を約束して頂いている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーの確保の徹底はできている。	お1人お1人への声掛けは優しく丁寧にされ、利用者からは笑顔の頷きや返答がされている。個人情報の書類は保管庫にて確実に確保されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	買物や外出など希望のある時は優先的に取り組み、納得しながら暮らせる様に支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人、一人一人のペースを大切に希望にそって支援している。		

グループホームひまわり

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者が自分の好みに合わせた服装を選ぶ援助又希望する入居者にはホームの職員が散髪している。			
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	誕生日祝膳、手作りケーキ、ちらし寿司等工夫し共に準備、片付けをしている。	以前は1～2人の利用者と共に日常の食事準備が行われていたが、高齢化で不可能になり、現状では利用者全員参加で行える、ちらし寿司の飾り付けやおやつ作り等で楽しんでもらっている。訪問当日は、ホットケーキミックスを使用した「たこやき」を利用者の方々が参加され作られていた。食事の後片付けを自分の仕事としてされる利用者が1～2人居られる。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	嚥下困難の人は、トロミ食やトロミを付けた飲み物を提供し、可能な限り献立や調理を工夫している。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後1日3回の歯磨き、入れ歯の手入れ、うがい等の習慣は定着している。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	昼夜を通して、定時と随時を併用し、声かけ、トイレ誘導を行っている。	利用者個々の排泄パターンを職員は共有し、声かけや誘導に努めている。失敗されることに家族が気を使われ、リハビリパンツを使用されている方もあるが、ホームとしては遠慮されないで普通の下着を勧めている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・食物 繊維の多く含んだ物 ファイバー飲料 ・便秘薬 生活の中で体を動かすリハビリと併用する。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週で入浴日を決めているが、外出等臨機応変に支援している。	いつでも入浴できる準備をしているが、入浴を拒む方もあり、清潔保持の観点からも週2回は確実に入浴してもらうよう、声かけ等に工夫をしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個人個人の状況に応じて、休息、安眠の環境を支援している。			

グループホームひまわり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ケース記録に個別処方録を綴っており、症状の変化、確認は充分出来ている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	教職に就いていた人は、レクリエーションのリーダーに起用する等生活歴を活かした支援		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買物に同行してもらったり、可能な限り家族と外出、予想外の外出等の支援。又、普段行けない場所への外出支援、実施している。	ホームの皆さんは外出行事を大変喜ばれるので、お花見、買い物の同行、近隣農道の散歩、日帰りドライブ(備北丘陵公園)等、可能な限り外出できる機会を作る努力をされている。又今後もより多く「外出の計画を作る」を努力目標とされ、利用者の皆さんの活気を促したいと述べられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買物時、ある程度お金を管理できる人は自分で支払う様支援する。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要求があれば要求どおりに支援し、こちらからも奨励している。		
52	19	居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	障害物無く自由に物品搬送し、入所者も安心し移動できる。	廊下、床、壁面、各部屋のドア等建物内装の大部分が木材が使用され、木のぬくもりが活かされ落ち着いた雰囲気を出されています。各ユニットの壁には、中学生職業体験の時間に利用者や学生との合作による作品が飾られ、此の作品をヒントにして利用者が協働で取り組めるお楽しみ作品を計画されていると説明があった。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの外に、畳の間とホールにソファ(長椅子)を設置し、居場所の工夫をしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族が気軽に訪問、宿泊でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者の各個室は採光は良好で、壁面(木材)の雰囲気合ったロッカーが施設で用意され、好みの机や椅子小物入れなどが自宅より持ちこまれ、個々の方の個性で使用されています。	

グループホームひまわり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	残存機能を維持し、過剰介護はしない。貼り絵作り等を通して、一人ひとりのわかる力を活かし、助け合い、支え合いながら支援している。		

グループホームひまわり

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。		ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない

グループホームひまわり

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が 家族等の3分の2くらいが 家族等の3分の1くらいが ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひまわり

作成日 平成 23年10月 1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	60	機能低下等で介護度が増す	ほぼすべての利用者	家族と一緒にかがわり実施	3ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。